覚醒の歌高誦ふかなからせい うたう た 巍然四寮に立籠もりぎ ぜんしりょう たて こ 迪を恵めし若人等 噫妖雲は狂へども まあよううん くる

爛漫春を 欺けど 三年の契浅からず

銀觴口辺にうつろへば

名残の春を惜むべし

の群は去り行きて

夏草深き丘上になっくさるかをかのへ 角笛遠くこだましぬつのぶぇとほ 月三更の影冴ゆる

> 窓に佇む多感の遊子 橇の音孤弦の月を呼ぶる はんしょう 若き男の子の寮歌消ゆる 今宵何をか思ふらん 颯々の風音寒く Ŧi.

篝火焚きて我は今 いまかりびた かれ いま かがりびた かれ いま 静かに宵を誦はなん

月影淡き楡の陵のきかげあわにれをか

不壊の生命と輝きし

今玲瓏の谿谷に 緑葉漸く紅葉してみどりょうや もみぢ

荻野 Ш 7辰夫君 村真君 作曲 作歌